

評価対象	羅 針 盤		達成度			改善状況のまとめ	学校関係者評価	次年度の課題	
	評価項目	具体的数値項目	①	②	総合				
I 特色ある学校づくりに努めていますか。	1 特色ある教育活動を行っていますか。	① 本校の教育課程(単位制)に満足している生徒が80%以上である。	A	A	A	本校の教育課程(単位制)への生徒満足度は、第2回アンケートで91.6%であった。	自分の学校が好きだと感じている生徒が多いことは良いことである。生徒が、自分が選んだ清明高校が間違いでなかったと感じることは重要である。	新学習指導要領の趣旨や内容を十分に踏まえた教育課程を編成する。	
		② 本校の教育活動(学校行事、部活動、生徒会活動等)に満足している生徒が80%以上である。	B	A	A	本校の教育活動(学校行事、部活動、生徒会活動等)への生徒満足度は、第2回アンケートで89.1%であった。			生徒の主体性を育むための諸活動を積極的に支援する。部活動や生徒会活動等が学校全体の活性化につながるような工夫をする。
		③ 自分の学校が好きだと感じている生徒の割合が80%以上である。	A	A	A	本校が好きかという設問に好意的な回答をした生徒は、第2回アンケートで89.6%であった。			個々の生徒に対し、愛校心に基づく自信や自己肯定感を育む。
II 生徒の意欲的な学習活動について適切な指導をしていますか。	2 生徒の実態に応じた指導を行っていますか。	① 本校の授業に満足している生徒が80%以上である。	B	B	B	本校の授業への生徒満足度は、第2回アンケートで88.1%であった。	授業には満足しているようであるが、今後は更に、各種補講やアドバンスクラスへの積極的な参加を促す工夫も必要である。	「主体的・対話的で深い学び」を具体化する授業改善を更に一層推進する。	
		② 習熟度別授業(数学・英語)がわかりやすいと感じている生徒が80%以上である。	A	A	A	本校の習熟度別授業(数学・英語)への生徒満足度は、第2回アンケートで87.9%であった。			基礎学力の確実な定着を図るとともに、生徒個々の習熟度に基づいたきめ細やかな授業を展開する。
		③ 「総合的な探究(学習)の時間」に、主体的に取り組んだと自己評価している生徒が80%以上である。	B	A	A	「総合的な探究(学習)の時間」に主体的に取り組んだかという設問への肯定的回答は、第2回アンケートで81.2%であった。			「総合的な探究の時間」において実施する「テーマ研究」の指導方法を充実させ、生徒の主体性を育むための支援を行う。
	3 生徒は確かな学力を身に付けていますか。	① 主体的に学んでいると感じている生徒が70%以上である。	B	B	B	授業に主体的に取り組んでいると回答した生徒は、第2回アンケートで83.9%であった。	家庭での学習時間が少ないことが気になる。生徒のモチベーションアップや、家庭での学習に意欲的に取り組む雰囲気づくりが今後の課題である。	一人一台の学習用端末(Chromebook)を最大限活用し、生徒の主体的な学びを支援する。	
		② 基礎学力が身についたと感じている生徒が80%以上である。	B	B	B	学習した内容に関する基礎学力が身についたと回答した生徒は、第2回アンケートで73.1%であった。			デジタル教材(スタディサプリ)等の活用方法を検証・充実させ、基礎学力の定着を図る。
		③ 家庭での1日あたりの平均学習時間が2時間以上の生徒が50%、1時間30分以上の生徒が70%以上である。	C	C	C	家庭での学習時間は個々の生徒によって大きな差があるため、保護者とも連携しながら粘り強く指導を続けている。			より高い進路目標を設定させるとともに、保護者との共通理解を得ながら、適切な学習課題を与える等の工夫を続ける。
III 生徒の充実した学校生活について適切な指導をしていますか。	4 組織的・継続的な指導を行っていますか。	① 職員会議や学年会議等において、生徒に関する情報交換を月に2回以上行っている。	A	A	A	職員会議は月1~2回、学年会議は月3回程度実施している。運営委員会や職員会議においては、必ず生徒情報の共有を行っている。	感染症対策による部活動の休止や、各種大会等の中止などにより、生徒の精神面への影響も懸念される。生徒の心のケアにも配慮してほしい。	生徒情報を共有するため、各年次や分掌の会議が円滑に開催できるよう、時間や場所の調整をする。	
		② 朝のSHRの開始時に、生徒の健康観察を日常的に行っている。	A	A	A	毎朝のSHR時に、正・副担任が2名で生徒の健康観察を行っている。			感染症が収束するまで、今後もSHRにおける正・副担任による健康観察を継続する。
		③ 校内の美化・安全点検を、月に1回実施している。	A	A	A	安全点検を月1回実施し、その結果に基づき、必ず修繕等の対策を実施している。			定期的な安全点検が形式化しないよう留意するとともに、一層の校内美化を推進する。
		④ いじめの発生防止に努め、いじめの解消率が100%である。	A	B	B	各学期に1回ずつアンケート調査を実施している。解消に向けては、その都度いじめ対策委員会を開催し、組織的に対応している。			いじめの未然防止指導を一層強化するとともに、早期発見や、発生時には迅速で組織的な対応を徹底する。
	5 生徒は健康で、規則正しい学校生活を送っていますか。	① 欠席率が1.2%、遅刻率が0.6%以下である。	B	B	B	1学期の欠席率・遅刻率は1.28%・0.46%、2学期は1.48%、0.52%であった。	あいさつの励行は清明生のよい点であり、皆が明るくあいさつしてくれる。地域からも、しっかりした教育活動を行っているという声を聞いている。	欠席等が多い生徒には、背景にある個々の事情を十分に踏まえて指導する。	
② 高校生らしい、規則正しい生活を送れていると思う生徒が90%以上である。		A	A	A	身だしなみやマナーの面で規則正しいを送れていると回答した生徒は、第2回アンケートで97.2%であった。	基本的な生活習慣に課題がある生徒に対しては、常に家庭との共通理解・共通認識に基づき、連携して改善に努める。			
③ あいさつがきちんとできていると思う生徒の割合が80%以上である。		A	A	A	あいさつがきちんとできていると回答した生徒は、第2回アンケートで92.1%であった。	日常的な声かけ等により、互いにあいさつを交わす雰囲気を校内に醸成する。			
IV 生徒の主体的な進路選択について適切な指導をしていますか。	6 計画的な指導を行っていますか。	① 生徒・保護者向け進路通信を月2回以上発行している。	B	B	B	生徒・保護者向け進路通信「ガイダンス」を2月までに8回発行するとともに、内容の充実を実現することができた。	家庭での学習方法がわからない生徒も多いと思われるので、適切な学習課題や、進路情報の提供が重要であると考えます。	進路通信「ガイダンス」について、内容の一層の充実を努めるとともに、保護者に対する情報発信の新たな方法を検討する。	
		② 学校からの進路に関する情報を、役立つと認識している生徒が80%以上である。	A	A	B	進路に関する学校通信が役立つという設問に肯定的回答をした生徒は、第2回アンケートで75.9%であった。			進路情報についてはWebページにも掲載するなどにより、生徒や保護者が必要とする情報を精選し、確実に伝えられるよう努める。
	7 生徒は自らの進路について真剣に考え、その実現に向けて取り組んでいますか。	① 「自己の生き方」と「将来の職業」を真剣に考え、進路実現に向けて積極的に取り組んでいる生徒が80%以上である。	B	B	B	自分の生き方将来の職業について真剣に考えたり、実現に向けて努力をしているかという設問に肯定的回答をした生徒は、第2回アンケートで82.1%であった。	将来の進路を見据えたうえで取り組んでいる生徒が多い。意識の高さを感じる。	ガイダンス機能を一層強化するとともに、感染症の収束後には外部講師による講演会の開催や進路関係行事の実施を積極的に再開し、生徒の進路選択の視野を拡げる。	
V 開かれた学校づくりに努めていますか。	8 家庭・地域社会に積極的に情報発信をしていますか。	① 学校の教育活動を保護者・地域住民に理解してもらうため、「学校公開」を年3回以上実施している。	C	B	C	中学生対象の学校公開(見学会)は、保護者を除く生徒のみの参加で、感染防止対策を徹底したうえで実施した。その他は、学校評議員会を除いて実施することができなかった。	今年度はコロナ禍で、地域社会など外部との交流制限はやむを得ない面もあった。来年度に向けては、工夫を続けてほしい。	感染症防止を考慮し、Webページ等による直接の接触を伴わない形態での広報活動を工夫する。学校公開は、中学生が参加しやすい方法や雰囲気づくりに努める。	
		② PTA総会、学年保護者会等に参加している保護者が80%以上である。	-	-	-	感染症防止対策のため、PTA総会は書面決議で実施した。三者面談以外の保護者の来校を伴う行事は実施できなかった。			PTA本部役員との共通理解のもとで、PTA総会や保護者会の開催方法や内容を工夫・検討し、より有意義なものに改善する。
		③ PTA新聞を年3回発行し、Webページを毎月更新している。	A	A	A	今年度のPTA新聞の発行は、休校期間があったため2回であった。感染症防止に係る情報等は、積極的にWebページを活用して提供した。			PTA新聞の内容充実や、Webページの更新頻度を上げるとともに、メール連絡網等も積極的に活用した広報活動に努める。
	9 家庭・地域の教育力を活用していますか。	① 保護者や地域社会の人を講師とした講演会等を年3回実施している。	C	B	B	1月には社会人講師特別授業を実施することができた。卒業生による受験報告会は、ICT機器を活用して3月に行う予定である。	昨年度に実施した地域の小学校との交流事業中止は残念であった。来年度以降の実施に期待している。	保護者や同窓会、地域の方々などを含めた外部人材を積極的に活用し、学校の教育力を向上させる。	